

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会				
事務局 (担当課)		生涯学習部博物館 電話 0 4 2 - 7 5 0 - 8 0 3 0				
開催日		令和 2 年 7 月 1 0 日 (金) ~ 7 月 1 7 日 (金)				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	5 人 (博物館長他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う博物館の対応と経過について (2) 第 1 3 期 第 1 回協議会における委員意見への対応について (3) 令和元年度博物館事業報告 (4) 令和 2 年度博物館事業計画について (5) その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（○は委員の意見、 は事務局の説明）

（審議を書面等で行った理由）

新型コロナウイルス感染症のまん延を防ぐために、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、議決の方法等について事前に取り決めを行い、書面により審議会委員等の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

2 議 題

（1）新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う博物館の対応と経過について

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う博物館の対応と経過について、事務局より説明資料の送付を行った。

○勤務校（県立高校）でも、学校再開後は新型コロナウイルス感染症感染防止のためマスク着用、フェイスシールド配布、教室へのシールド設置等の対策を行っている。換気を行いながらの空調など、夏に向けての課題もでてきている。博物館の方では、団体利用自粛の呼びかけや一方通行の確保等により感染防止対策に取り組まれているとのこと、来館者が安心して来場できる環境を整備されていると思う。

○新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2月以降のイベントの自粛や中止さらには施設の休止などの措置は致し方ないものであり、適切な対応であったと考える。それにつけても、事前に企画されていた多彩なイベント類を中止するという決断はまさに断腸の思いと推察するが、博物館活動に関心のある多くの市民にとっても入館できなかつたり、イベントに参加できなかつたりしたことは大きな痛手になったものと考えている。

○再開後の博物館を、全天周映画も含めて見学した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が各所にとられながらも出来る限りの展示・上映がなされていた。入館してすぐに、『東京2020大会公式アートポスター展』が目についた。本市では当館にしか保管されていない大変貴重なポスターで、『日本オリンピックミュージアム』では見なかったので参考になった。常設展示は自然・歴史展示室のみの公開だったが、逆に展示物の一つ一つをじっくり見ることになり、今まで気が付かなかった新しい発見につながった。「カイコ」のコーナーに、保育園の5歳児の小グループが学芸員の説明に熱心に目を輝かせて可愛いマスク姿で聞いているところにたまたま出会った。子供たちは、コロナ禍でこうした機会にあまり恵まれていなかったのか、保育士が「おしまいよ」と言

っている後にもいろいろ質問し、それにきちんと答えていた学芸員の姿が印象的だった。

- コロナ禍でのご対応本当に大変だと思う。感染拡大防止対策に、感染者発生の際に来館者へ連絡できるようなことがあればより良いのではと考える。短くなった小学生等の夏休みのイベントが無くなり残念。
- 新型コロナウイルス感染症への対応は良かったと思う。特にプラネタリウムは怖い。それへの対応として通常210席を40席にするのは労力的にも大変だったと思う。本当にご苦労様であった。
- 新型コロナウイルスの状況に応じた安全に配慮した運営が大切だと考える。
- 未曾有の新型コロナウイルス感染防止のための休館や諸対策への対応は、大変だったことと思う。展示の在り方や博物館の存在意義そのものが問われるものとなった。全国各館でさまざまな新たな取り組みがなされており、相模原の参考となるものも少なくないと思うので、情報収集に努めていただきたい。このコロナウイルス禍の中、博物館実習生の受入れを行って下さり、感謝する。
- この状況では、休館はやむを得ない対応と受け取った。博物館のホームページをゆっくり見ることが出来た。とても充実しているし楽しめる内容だと思う。この機会に、博物館をアピールしていただきたい。職員の方は、この休館中に何かできたのか。

博物館の新型コロナウイルス感染拡大防止対応についてご理解いただいた。また、激励や慰労のコメントをいただき感謝申し上げたい。市内各公共施設でもそれぞれの特性を考慮しつつ対応を模索しており、博物館においても社会状況を見極めつつ、随時改善をはかりながら今後も対応を進めていきたい。休館期間中の発信としては、「相模原市立博物館の職員ブログ」の中で、家庭学習や、家の周りでの自然観察の一助になるようなシリーズ記事を上げたり、学芸員による展示室の解説動画を収録したりするなど、市民の学習機会の継続を目的とした活動や発信を行った。

(2) 第13期第1回協議会における委員意見への対応について

第13期第1回協議会における委員意見への対応について、事務局より説明資料の送付を行った。

- 外国語表記について、勤務校（県立高校）にも在県外国人等特別募集、海外帰国生徒特別募集で入学する生徒が毎年いる。理系科目に関心の高い生徒も一定程度いる関係で、一部でも表記されていると有り難いと思う。連携について、勤務校（県立高校）はかつてあった理数科の伝統を受けついでサイエンス部が理科分野において多岐にわたる研究活動をしている。連携によるボランティア活動などの機会があるとよいと思う。

○委員から出された意見（3件）に対する対応を検討してみたが、それぞれの意見について適切に処理されていたと思う。特に、意見3（博物館の活動評価書に記載された意見について、博物館としてどのような対応をしたのかについて明確化してほしい。）の回答として添付された平成29年度の対応書を拝見することで、当時の博物館での事業普及活動などの実施対応が理解できたと考えている。

○当博物館のホームページの博物館概要から「相模原市立博物館協議会について」のページにスムーズに入る事が出来た。確かに第12期第6回の協議会議事録は共有した方がよいと思った。さらにホームページの年報から、平成7年度の当館開館時のものから今日までの記録を読ませて頂いたが、現在までの大体の流れが感じとれた。

○議事録等のリンクをHPに表示いただき有り難いと思う。また、前年会議録を拝読した。

○今回は新しい委員がほとんどであったので前期第6回の協議会の資料は良かったと思う。きれいにまとめてあって分かり易かった。特に学校と博物館との絡みで指導主事はぜひ必要だと思う。強く市側に要望していただきたい。

○前回会議での委員意見に対しては、概ね対応して下さったものと考えている。過年度対応事項の「常設展示のリニューアル」については、引き続き大きな課題として残されているものと考えている。厳しい財政事情とは察するが、交付税等の活用策もご検討いただきたい。

○協議会委員の方は博物館をよくご存じだという印象を受けた。私も学ばねばと思う。ホームページは時々開くが、トップページから直ぐにアクセスできる。「市民の会」と「市民学芸員」の位置づけと活動が良くのみ込めていないので教えていただきたい。今年も「学びの収穫祭」が実施されれば、是非参加したい。

館内の解説パネルや案内サイン類等の多言語化については可能な部分から進めているところだが、英語以外の翻訳表記ができていないのが現状である。しかし、多言語化は公共施設において必要性が高まっており、掲示スペースや翻訳の経費などクリアしなくてはならない課題は多いが、できることから進めていきたい。

ホームページは今や博物館からの情報発信の中心となり、社会的にも即時的で信頼性の高い媒体と認識されている。今後も博物館のインターフェイスとしてわかりやすく、信頼を保てるよう運用していきたい。

また、「市民の会」と「市民学芸員」については表記上、区別がわかりにくいですが、各専門分野の活動をベースとした各ボランティアグループを「市民の会」と総称している。これとは別に、博物館の教育普及活動を総合的にサポ

ートするために、公募による養成講座を受講した上で登録していただいているのが「市民学芸員」である。市民学芸員の登録者には、市民の会に重複して所属している人も多い。

相模原市が今年末までの主催事業の中止方針を決めたことにより、大規模、長時間、多人数の参加が見込まれるようなイベントは中止せざるを得ず、残念ながら今年度の「学びの収穫祭」は中止を決定した。例年、弥栄高校サイエンス部など学校の部活動による発表も行っていただいております。来年度以降も引き続き、学びの収穫祭に限らず様々な側面からの連携を模索していきたい。

(3) 令和元年度博物館事業報告

令和元年度博物館事業報告について、事務局より説明資料の送付を行った。

○令和元年度の博物館事業報告に意義はない。一つ気になったのは、平成26年度～28年度の活動評価全体総括には、入館者数は頭打ちの傾向がある旨が書かれていた(P5)が、令和元年度の入館者数も138,573人であり、頭打ちの傾向はほぼ同様に継続しているかと思う。令和2年度が新型コロナ禍の影響で入館者数が激減すると予想されるので、今後の立て直しが急務になると感じている。

○令和2年3月2日から3月31日までコロナの影響で休館であったにもかかわらず、前年度より入館者数が増えている。『ドラえもん宇宙ふしぎ大探検3～地球のふしぎ～』や『ジュラシックヒーローズ』が子供の休み期間中に上映された効果もあるのか、全天周映画の入館者数が増加した。また、企画展のJAXA連携企画「オーロラが輝く奇跡の星」写真展をはじめ、その他の企画展も来場者を集めた。講座・講演会・教室・観望会などの事業も、数多く実施された。『北条早雲没後500年連続講演会』に参加したが、ほとんどが年配者で埋めつくされていた。博物館職員の講師依頼等も、70件、3,759人の聴講者があり、継続的かつ有意義な活動であった。

○年報拝読した。令和元年度は、天災及びコロナにより延期・中止があったことが分かった。影響が今年度が続くと考えられる。対応が難しいと思う。

○入館者の年齢層がもう少しわかり易いと良かったと思う。博物館職員の講師派遣にこれだけ引っぱり出されると本来の現場が大変だろう。しかしこれは大事な仕事なので、ぜひ続けていただきたい。学芸員の増員も市の方へ要求してもらいたい。現学芸員の力量に感謝している。

○開館時よりも学芸員が削減されている中、開館25年を経て、なお13万人を超える入館者を確保している市立レベル博物館はほとんどなく、国内に誇れる魅力ある活動を行っている博物館であると評価する。指導要領改訂のたびに博

学連携が強化される中、博物館の指導主事が不在になってしまったことは遺憾に思う。

○年報を読むと博物館の概要が大まかにわかった。事業数がとても多く、博物館の専門職の学芸員の存在は大きいと感じた。P44の資料の特別利用を見て、博物館の資料は館の根幹だと改めて思った。ただ、増え続ける資料に、限られたスペースのこと、これからどう保管していくのか。市内の社会教育施設は行財政改革で経費が削られている。

統計上、来館者数等は平成31（令和元）年度の第三四半期までは好調な数値を維持していたが、令和2年2月以降はあらゆる数値がコロナ禍の影響を受けている。今後、活動を評価していく上では、特殊であることを理由に比較検討しないということではない。コロナ禍で博物館がどのような活動を行い、継続できていないもの、再開できたもの、新たに行った取組などを総括できるよう、社会状況の経過と合わせて記録していきたい。

また、専門職など必要な人員を補充するための要求は毎年行っており、令和元年度まで定数に満たない状態が続いていた。ここ数年は、会計年度任用職員の確保を進めるなどして補完しているが、今後も適正な人員の安定的確保に努めていきたい。また収蔵庫の拡張についても課題として捉えている。今後も外部倉庫を含め、検討を進めていきたい。

（４）令和2年度博物館事業計画について

令和2年度博物館事業計画について、事務局より説明資料の送付を行った。

○博物館再開後、今後予定される展示会やイベントの開催をより多くの市民に知ってもらうための広報活動は、以前にも増して重要になるはず。HPや市の広報誌だけでなく、本年はイベントニュースなどを市内の全小中学校に配布案内するなどの能動的な案も検討してみてもどうか。

○新型コロナウイルス感染症拡大により、計画という点においては先の見えない難しい状況にある。議題1で記述したことに加えて、館内にも掲示されていたが、相模原市立博物館のホームページ内の職員ブログをもっと多くの人に見てもらえればと感じる。例として、「雨の中、ヤマユリ開花」や「おかいこさま飼育中（42日目 羽化）」や「写真で見る相模原～昭和・平成の生活と民俗」（No.17 キュウリの供え物）等。また、『さがぼんツイッター』には、多くのツイートが張られており、当館以外の様々なジャンルの情報も知る事が出来る。さらに「最近の投稿」の欄には『津久井城跡資料調査報告書 - 御屋敷曲輪の再評価 - の刊行について』や博物館ミニ展示「旧石器時代の道具～狩りの道具とその変化～」・『東京2020大会公式アートポスター展【オリンピ

- ック版】』や『尾崎弔堂記念館』・『吉野宿ふじや』などの情報が得られる。こうした当館のホームページの利用をもっと広くアピール出来たらと思う。
- 博物館ミニ展示「旧石器時代の道具～狩りの道具とその変化～」の開催があり、安心し、うれしく思った。プラネタリウム（全天周映画）が再開し楽しみ。小中学生の短い夏休みに楽しめると良い。
 - 年間全体の計画があると良かった。新型コロナウイルスの関係で事業等企画実行するのが困難だと思う。そんな中少しでも博物館を知ってもらったり、来てもらおうと努力したり、本当にご苦労様。これからも頑張ってもらいたい。
 - コロナウイルス禍の中で見直しを迫られる事業も出てくると思うが、こういう時だからこそ、市民に寄り添った活動展開がされることを期待している。
 - 調査研究の成果を事業化したイベントだけでも後期に実施できると良い。個人的には、市史講演会の中止はとても残念。

相模原市の方針として、本年12月31日までの主催事業の中止が決定されている中で、教育局としては市民の学びの場の確保が不可欠であるとの方針により、博物館でも密集、密閉、密接が回避可能なイベントの実施を模索している。6月から再開したプラネタリウム上映を引き続き継続し、9月以降は企画展を再開する。「生きものミニサロン」のように少人数で野外実施が可能なものや、リモート配信が可能な講演会なども実施の方向で準備を進めている。来館者と職員の安全を確保した上で、こうしたイベントを実施し、感染症拡大防止策の改善点などをブラッシュアップしながら今年度下半期のイベント開催を模索し、次年度以降の計画へも反映させていきたい。

(5) その他

- 今秋には帰還予定の「はやぶさ2」に関するイベント企画などの今年度での予定は、すでにあるのか。
- 学芸員も多くの仕事があり大変かもしれないが、動画による情報配信も利用出来ないだろうか。
- 「教育振興計画」について、コロナの長期化に伴い計画の変更が必要になるとも考えられる。大変な時代になった。博物館は大切な学びの場。何ができるのか、これからも考えていきたい。
- 毎年4年生が、学習として博物館に行く機会があるが、児童はとても興味関心を持って見学している。時間が足りないくらい。しかし、本校は、相模湖近隣の小学校だが、博物館までの遠さを感じる。公民館などの公共施設と連携して出張展示などができると博物館が身近に感じてくるのではと思う。
- 博物館の新たな活動展開、リニューアルに向けての国の財政措置を参考までに挙げておく。

地方交付税の特別交付税（「博物館があるため、特別の財政需要があること」を考慮して定める額が算定されている。解説の多言語化、企画・展示、広報等のソフト事業も対象）

地方交付税の普通交付税（社会教育施設等建設費が含まれている）

文化庁文化財の保存・活用に係る国庫補助事業（保管施設の整備等のバード事業への交付税措置が拡充されている）

公共施設等適正管理推進事業債（公共施設等総合管理計画を策定し、その上で「個別施設計画」を作成すれば、公立博物館の「長寿命化事業」（法定耐用年数を超えて延伸させる事業）が地方債の起債対象となりうる）

文化庁「地域の美術館・博物館クラスターの形成」事業交付金

- ・会議録の「JAXA との連携について」部分の質疑を読んで思ったこと。
この事業を「市民にとっての博物館の役割」として捉えて見ると、宇宙事業は誰もが関われる訳ではない。博物館が市民を宇宙へ近づけ、共に歩んでいると感じさせてくれている。同時にJAXAの足跡が相模原の博物館に記録として残され後世の人への贈り物となる。決してJAXAに依存しているとは考えない。かつて軍都で、戦後のこの土地の利用を思う時、ここに博物館があって本当に良かったと思わないか。

・貸出キットの件だが、ご存じかと思うが図書館の図書の貸し出しキットの運送費は予算化されている。是非、博物館でも予算化をとった。

全国的に大きな注目を浴びるであろう年末の小惑星探査機はやぶさ2のサンプルリターンについては、随時JAXAと情報交換を行っているところである。現在のところ具体的なイベントの計画は進んでいないが、はやぶさ2の運用イベントに合わせた展示などを検討している。JAXAはシビックプライドを形成する大きな要素でもあり、博物館では今後とも強固な連携を図っていきたい。

委員からご提示いただいた国の財政措置や、別の委員からご提案いただいた貸出キットの運送費の予算化については、今後の博物館事業のあり方と共に活用可能性を見極めていきたい。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

No	氏 名	備 考	選出区分	出欠席
1	沼澤 俊宏	市立内郷小学校校長	学校教育	出席
2	五十里 雅子	県立弥栄高等学校副校長	同	出席
3	戸塚 厚生	市文化財研究協議会会長	社会教育	出席
4	林 さとみ	市立小中学校 PTA 連絡協議会副会長	同	出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	家庭教育の向上に資 する活動を行う者	出席
6	岩野 秀俊	日本大学特任教授	学識経験者	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学教授	同	出席
8	藤本 正樹	宇宙科学研究所副所長	同	欠席
9	遠藤 正典	市の住民	市民公募	出席
10	谷内 尋賀子	市の住民	同	出席